

大阪工業大学工学部 正会員 ○福田 俊大  
大阪工業大学工学部 酒井 顕史  
大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞  
大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成

### 1. はじめに

ならまちは、奈良市の市街地に今なお歴史的な街並として現存する街である。平城京遷都以来、長い歴史を持ち、時間の経過とともに盛衰を繰り返してきた。幸いにも第二次世界大戦の戦火をのがれたために江戸時代末期や明治時代の町家や建造物が多く残ることとなった。当時の面影を今に残しつつ近代的な建物や伝統的町家が立ち並ぶならまちは、生活感があるなかにも地域の個性や文化などの特色が全面に出ており、訪れた人々に地域の歴史や文化を肌で感じさせてくれる。歴史的街並は、寺社や遺産などの文化遺産と違い、その中で人々が生活を営み長い時間をかけて土地の自然・風土を生かして形成されたものである。このように優れた景観を有するならまちは歴史的街並は貴重な財産であり、守りつつ、積極的に利活用していかなければならない。

### 2. 研究の目的と方法

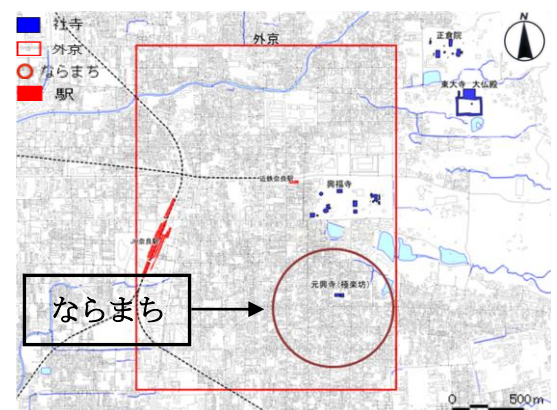
近年、奈良市は「奈良市都市計画マスタープラン」を策定し、ならまち界隈は国際文化観光都市に指定された。ならまちも観光スポットとして注目され、町家や歴史的街並の価値への認識が住民に浸透しつつある。町家の保全・活用には、地方自治体など行政の活動に加えて、住民の理解と協力が必要不可欠であり、行政と住民が一体となったまちづくりが必要とされている。

本研究では、ならまち界隈の地理空間情報に関するデータベースを構築し、ならまちを分析・把握している。分析から得られた知見をならまちに訪れる人に伝え、ならまちな魅力を共有することを目的としている。くわえて、構築したデータベースによる分析が、今後のならまち界隈の街並保全活動への一助となることを狙っている。具体的には、奈良市の都市計画図、現地調査によって得た各種データ、観光ガイドブックに記載される観光ルートなどの資料やデータをもとにならまち界隈を調査し地理情報システム（GIS : Geographic Information System）上でデータ構築を行っている。さらに、3次元モデリングソフトを用いてならまち界隈の街並を3次元で表現し、ならまちを視覚的にも把握している。

### 3. 対象地域

本研究では、奈良市に着目しており、なかでも“ならまち”と呼ばれる地域とその周囲を対象地としている（図－1）。都が長岡京に移ったことで平城京は荒廃したが、その後平城京の外京には興福寺や元興寺などが残り寺領である郷が誕生し、そこに人々が住みつくこととなり、ならまちが形成された。

ならまちは行政区でないため明確な範囲が存在しておらず、現在の元興寺の周辺地域が通称で“ならまち”と呼ばれている。ならまちには、往時の町家の原型を保ちつつ現代風に改装された飲食店や雑貨店などが立ち並び、路地を歩きながら歴史的風情を楽しむことができることから、観光客で賑わいはじめている。



図－1 対象地域

Toshihiro FUKUDA, Takafumi SAKAI, Shin YOSHIKAWA and Kazunari TANAKA

hb23ic@bma.biglobe.ne.jp

#### 4. ならまち界隈の分析

ならまち界隈を分析・把握するにあたって、奈良市が観光事業を積極的に取り組んでいることから観光に着目する。ならまち界隈には東大寺や興福寺といった観光資源として魅力が高いものがあり、それらをより引き立てるためには、ならまちをいかに活用するかが重要となってくる。よって、観光ガイドブックで紹介される観光ルートからその地域の特徴を見出すこととする（図－2）。観光ガイドブックで紹介される観光ルートを分類すると、奈良公園コース、東大寺・興福寺コース、ならまちコース、春日大社・高畑コースの4ルートが存在することが確認できた。奈良公園コース、東大寺・興福寺コースは、個々の要素を主体としており、ならまちコース、春日大社・高畑コースは、街並を主体に観光ルートが選定されていた。すなわち、高畑にも歴史的街並が残っていることが確認できている。

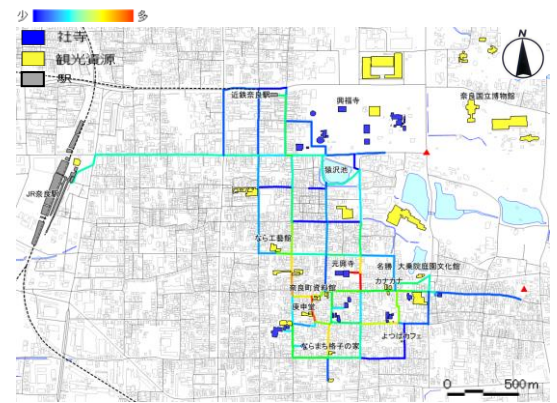
次に、ならまちと高畑に現存する歴史的町家の分布状況を現地調査から確認した。ならまちは明確な範囲がないため歴史的関係性の深い外京を対象範囲として、また高畑は町丁目の高畑町の範囲で調査した。その結果、ならまちに町家が多く現存していることが把握できた。町家が多く存在していることから、より景観的に魅力があると考え、ならまちを詳しく分析することにした。ならまちな魅力の要素である町家と“庚申さん”について分布状況を現地調査し、調査結果と観光ガイドブック等から得た観光ルートを元にデータベースをGIS上で構築した。ならまちは、庚申信仰の拠点である庚申堂があり、その御守りとして“庚申さん（身代わり猿）”はならまち特有の付属物である。

分析は、ならまちな要素を多く持った部分を重視して把握を行うため、外京の範囲を交差点間でリンクとして分けて評価を行った。評価方法は、町家に対しては外観要素で評価している。くわえてリンクに対して接している町家の間口とリンクから町家の割合を求めることにより町家の集積を考慮した評価を行った。分析結果から町家が多く面しているリンクは、元興寺周辺に密集し、庚申さんは庚申堂の周辺に密集している傾向がよみとれる。つまり、最もならまちらしい通りは庚申堂の前の通りであるといえる（図－3）。さらに、抽出したリンクを視覚的に把握するために3次元モデリングソフトによってモデルを構築し、構築したモデルを用いて景観シミュレーションを行った。

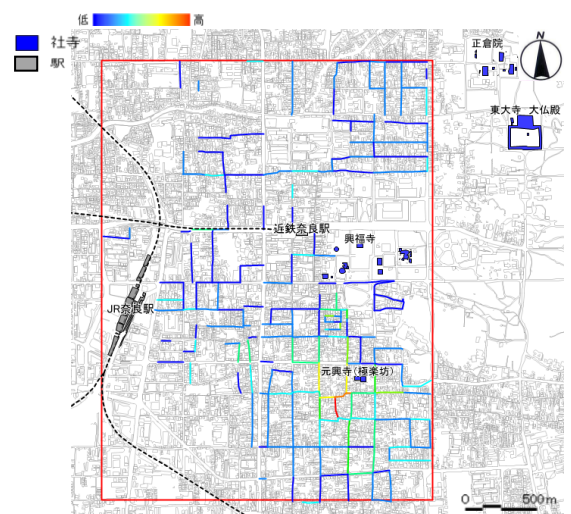
#### 5. おわりに

GISを用いてならまち界隈の観光ルート、町家の分布状況などを把握することで、ならまち界隈の分析と把握を行った。庚申堂の前の通りが観光ルートとして多く選出されていることから、ならまちな魅力が町家と庚申さんであると考えられる。

ならまちらしさの要素として庚申さんを取りあげ、3次元モデルによって庚申堂周辺の表現を試みた。しかし、3次元モデル作成の段階で、建物外周線と写真を使つてのモデリングを行ったため精度の高いモデルを作成することができず、より詳細な視覚的把握には至らなかった。今後は、詳細な視覚的把握を行うため、3次元モデルをさらに精微に作成することによってならまち界隈の表現を行っていかなければならない。ならまち界隈の分析については現段階で主観の域では留まっているため、客観的な分析についても必要であると考ええる。



図－2 ならまちな観光ルート



図－3 ならまちな評価結果